

◇工事積算上の問題点及び改訂要望について◇

積算委員会

平成3年9月、会員各社に対し、工事積算上の問題点及び改訂要望のアンケート調査を行いました。アンケート調査結果に基づき、その概要を報告いたします。

アンケート調査の主要項目

★ 調査編

- 1) 仮設費
- 2) 陸上ボーリング
- 3) 海上ボーリング
- 4) 急傾斜地調査
- 5) 解析費
- 6) 諸試験全般
- 7) その他
- 8) 調査編に関する要望事項

★ 工事編

- 1) 大孔径工事
- 2) アンカー工事
- 3) 集水井工事
- 4) 集水井ボーリング
- 5) 技術管理
- 6) その他
- 7) 工事編に関する要望事項



以上、各項目について、発注者別（建設省、公団等を含む官庁、県、市町村）にアンケートを戴き、項目別にまとめました。

調査編について

会員数76社、非会員5社中回答を戴いたのは37社（回答率48.7%）です。

（アンケート項目はa b c d e…で表示）

1) 仮設費について

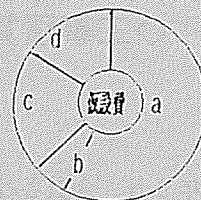
積算上、仮設について各社非常に関心があり問題点、要望事項も一番多かった。これは、現在の設計説明が机上説明の為、現地の状況と隔たりが生じ易い為と思われます。

- | | |
|-------------------------------|-----|
| a) 山岳仮設方法（人肩、ヘリコプター、索道、モノレール） | 58% |
| b) 機械組立て解体 | 4% |
| c) 給水仮設 | 20% |
| d) その他 | 18% |

*仮設費の問題点及び要望

- 仮設方法が変更した場合、設計変更の対象にして欲しい

- 索道、モノレール、ヘリの採用、積算基準の確立
- 給水仮設費の計上
- 山岳仮設方法を設計書に記載して欲しい



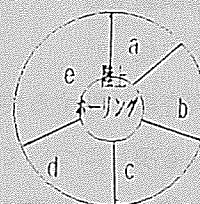
2) 陸上ボーリングについて

問題点は各項目に平均分散されていて、以前から陳情事項に取り上げられているオールコアの採用、コア箱の管理保管等、また、地質区分（破砕帯）に要望が見受けられた。

a) 掘削孔径	15%
b) オールコア、ノンコアの区分、作業能率	17%
c) 破砕帯等地層分類の積算計上	17%
d) コア箱の取扱	18%
e) その他	33%

*陸上ボーリングの問題点及び要望

- オールコアの必要性が無い場合は、ノンコアの採用
- 破砕帯の掘削効率の低下に伴う積算基準の確立
- コア箱の保管期限及び管理費の計上
- 深度割り増しの採用
- シンオールサンプル、LLT試験のパイロットボーリングの費用計上



3) 海上ボーリングについて

該当発注機関は運輸省と自治体の県が主で、積算基準も運輸省の基準が採用されているところが多い。近年、海上ボーリングの積算に於いて、色々な問題が発生し委員会として真剣に取り組まなければならない。

積算構成の内、外部業者に依存しなければならない作業の金額大きく（海上やぐら移動に伴うクレーン船のリース代、通船、警戒船）積算上、実勢価格と格差、気象状況による、稼働率の低下が直接原価に影響を及ぼしている。

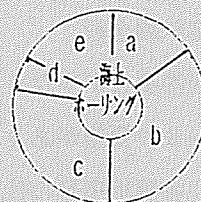
a) 海上仮設方法	15%
b) 作業稼働率	35%
c) 気象状況	29%
d) チェックボーリング	4%
e) 発注時期	17%

f) その他

0%

*海上ボーリングの問題点及び要望

- 気象状況による変動稼働率の採用
- 発注時期の考慮（気象、調査地区の漁獲時期）
- 海底地形の事前調査資料の添付
- クレーン船のやぐら吊り上げ能力の設定と回航費用



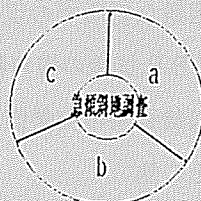
4) 急傾斜地調査について

一件当たりの受注金額はあまり大きくないが調査方法、積算構成、積算単価に於いて、問題が多い。

- a) 簡易貫入試験方法、単価及び必要性 34%
- b) 対策工設計費の妥当性 36%
- c) その他 30%

*急傾斜地調査の問題点及び要望

- 地表地質調査の適性な積算計上
- 危険箇所での業務に対する仮設及び安全対策費の計上
- 全項目の単価の見直し
- コンサル業務の適性計上
- 簡易貫入試験方法のみでの解析が無理の場合ボーリングを併用すべきである。



5) 解析費について

当項目は平成3年度よりコンサルタント的業務費として計上され、長年業界の要望が実現された例である。全地連と建設省のコンセンサスがとれ実現の運びになったと思われます。但し、自治体に於いては、一部で未採用の県、市町村があり、協会活動の一つとして陳情項目に取り上げ又、積算説明会の機会にPRをして普及に努めます。

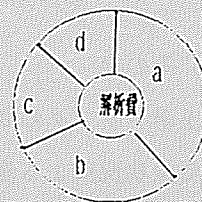
- a) 各解析項目の仕様書への明示 38%
- b) 歩掛りの妥当性 30%
- c) 設計変更の取り扱い 18%
- d) その他 14%

*解析費の問題点及び要望

- 解析範囲を仕様書に明示
- 沈下、円弧すべり、の数量の変更対象

- コアー鑑定費の計上

調査業務費と解析業務費は明確に分離積算



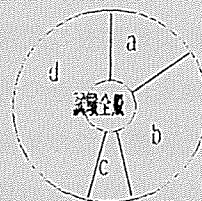
6) 諸試験全般

回答項目が少なく問題点も少ないのではないかとと思われる。C.B.R.試験に関して2～3の要望がありました。

a) 各解析項目の仕様書への明示	14%
b) 歩掛りの妥当性	30%
c) 設計変更の取り扱い	8%
d) その他	48%

* 諸試験全般の問題点及び要望

- 岩石試験で積算基準のないものがあり歩掛りの作成
- 試験解析費の計上
- 困難な場所での現位置試験に仮設条件を考慮して欲しい
- C.B.R.試験の資料採取費に掘削、埋め戻し
- 舗装費用の実勢価格の計上



7) その他

この項目は、多方面にわたり問題、要望、疑問があるので、出来るかぎりそのままの声を載せてあります。

- 発注機関の中で、担当課によって、積算単価に隔たりがある
- 防災点検、震災点検で仕様書にない項目を要求され、積算に計上されない
- 営繕関係の単価が安い
- 公道上の作業に対して、交通安全費、埋設物確認の費用計上
- 各種団体（建築設計協会、土地改良事業団連合会、土建業協会、等）に地質調査の理解及び認識をPRの機会を作る
- 東北地区の山岳地帯の作業効率の低下に伴う補正
- 技術打ち合わせの回数明示
- 弾性波探査の1km未満の、積算基準の変更
- 立ち会い、検尺の待ち時間の計上
- ボーリング位置出しの計上（特に山岳地帯）

8) 積算資料（調査編）に対する要望

- 岩石試験の試験項目の追加（スレーキング、浸水崩壊度）
- 海上編の歩掛りの適用
- 軟岩の機械ボーリング、標準貫入試験の歩掛り計上
- 積算資料の歩掛りと実勢価格との差がある

以上、アンケート調査の結果から建設省、県、市町村に於ける問題点は、大体同じ傾向があり、海上ボーリングについては、施工業者が限られ、発注機関も県、市町村と海、河川のあるところに限定される。問題点や要望が多いのは、水深（－8～－30m）が深く、陸地から遠い所の調査地点で、気象や仮設段取りに、自社の企業努力では解決できない問題を含んでいる。積算委員会として、前向きに取り組まねばならないと思います。

コンサルタント的業務費の計上の実績、仮設費についての見直し等、現在、全地連で活動中の項目であります。工事編は紙面の関係で次回に掲載させていただきます。

最後に今回のアンケートに協力していただいた各社担当者に感謝いたします。

